

2018年10月28日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会 (第474回)

さんぽかい

京都一周トレイル・第2回 伏見稲荷から蹴上へ (京都)

まさに秋晴れ。抜けるような青空です。
電車の窓から、何か所か運動会の光景が見られました。
前日が雨だったためかも知れません。
大きな歓声が響いていた事でしょう。



京都一周トレイル2回目は、去年11月のゴール地点
伏見稲荷大社からスタート。

参加者は22名 (男性15、女性7)です。

近年パワースポットとして人気急上昇中の伏見稲荷。

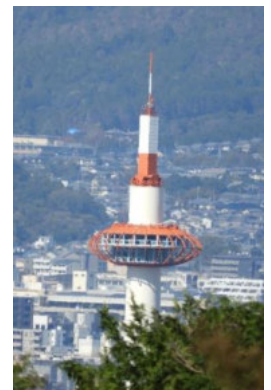
多くの外国人観光客で、昨年をも上回る混雑です。

特に人気の千本鳥居を進むのは、まさに牛歩。まとまって歩く事もままならず、
とにかく中腹の「四辻」に集まる事にして、鳥居の続く石段をひたすら登りました。

バラバラになってしまいましたから、全員が集合できるまでには、30分程のタイムラグが出来、
見晴らしを楽しむことも出来ました。稲荷山は東山三十六峰の一番南の端で、標高233m。

「四辻」(165m)から見た、京都盆地(南半)の絶景です。

(黒い影は釣燈籠です)



北西の方角、一番高い所が愛宕山(標高924m)です。ここには映っていませんが、対する
北東の比叡山は848mですから、愛宕山は京都盆地を囲む山の中では、最も高い事になります。
また、右端の樹林との境目に、京都駅前の京都タワーの上部を見る事が出来ました。

「四辻」に全員が揃った所で、朱の鳥居の列を離れて北へ、急な坂道を下って、やがて
泉涌寺(せんにゅうじ)の森に入りました。



泉涌寺は、9世紀半ばに藤原氏の山荘を寺に改め、仙遊寺と呼ばれてきました。

鎌倉時代に大伽藍を営んだ際に、境内から清らかな水が湧き出したことから、同じ音で、泉の涌く寺「泉涌寺」と改められたのだそうです。

代々皇室の尊崇が篤く、「御寺(みでら)」と呼ばれています。数あるお寺を代表するお寺、“ザ・お寺”という事でしょう。(末尾の「補足・蛇足」をご参照下さい)

兼好法師の徒然草に、常に続くものの例えとして、「あだし野の露消ゆる時なく、鳥辺山の烟(けぶり)立ち去らで……」とあるように、この東山の麓は「鳥辺野・鳥戸野(山)(とりべの、とりべやま)」と呼ばれ、西の化野(あだしの)と並んで、葬送の地でした。



こちらの「鳥戸野陵(とりべの の みささぎ)」には、一条天皇の皇后定子(さだこ ていし)が葬られています。

(977年生～1001年1月13日没)

この名前に聞き覚えは……?そう、あの「枕草子」の清少納言がお仕えした「中宮定子(ちゅうぐう ていし)」ですね。

国道1号線(旧東海道)の下をくぐって北へ進みます。

ここから蹴上までは、ほぼ国有林の中の尾根道。左下を見れば東山区、右下は山科区です。麓には、清水寺、高台寺、八坂神社、円山公園、知恩院など高名な寺社観光地が続いています。かすかに鐘の音も聞こえてきました。

落ち葉の積もった心地の良い路ですが、実は伏兵がありました。この辺りから北の山は、先日の台風で大きな被害を受けていたのです。京都府山岳連盟に問い合わせ、蹴上までは問題ないという話と、幹事さんが実際に下見を繰り返して、安全は確認していましたが、大木が倒れて、それをまたいだり、くぐったり、迂回したりする所が何カ所もありました。



蹴上（けあげ）への降り口、尊勝院まで来ました。あと少しです。

この寺のご本尊は、10世紀の天台座主「元三大師 良源（がんだいし りょうげん）」で、「おみくじ」の元祖だそうです。「おみくじは観音様から戴いた処方箋」だとか。途中で4人が離脱して、残った18人の集合写真です。



伏見稲荷の混雑と倒木に時間を取られ、予定より1時間遅く16時に無事解散しました。

*

燦歩会から戻った翌朝（10月29日）のNHKニュース「おはよう日本」で、京都局から「京都一周トレイルが台風による倒木のため、通行が容易でない」と伝えていました。

特に北部の被害が大きく、ルートを間違える人も出る程ですが、片付けも手作業でするしかなく、復旧には時間がかかりそうだという事でした。 早期の復旧を祈ります。

補 足 と 蛇 足

1、泉涌寺のこと

鎌倉中期の四条天皇、江戸初期の後水尾天皇以来歴代の天皇、皇族方のお墓があるので、「御寺」と呼ばれています。

天皇家の宗教は神道では？ とお思いかも知れませんが、それは明治以降の事です。東大寺大仏と聖武天皇の例を引き合いに出すまでもなく、飛鳥・奈良の昔から江戸時代末の孝明天皇（1867年薨去）まで、葬儀はずっと仏式で行われて来ました。

図は明治～大正時代に編纂された官撰の大百科事典「古事類苑（こじるいえん）」記載の「泉涌寺 月輪陵（つきのわのみささぎ）」です。建ち並ぶ石塔が、天皇皇族方のお墓です。巨大な古墳の頃と比べると、歴史の隔たりを感じさせられますね。



補足の補足

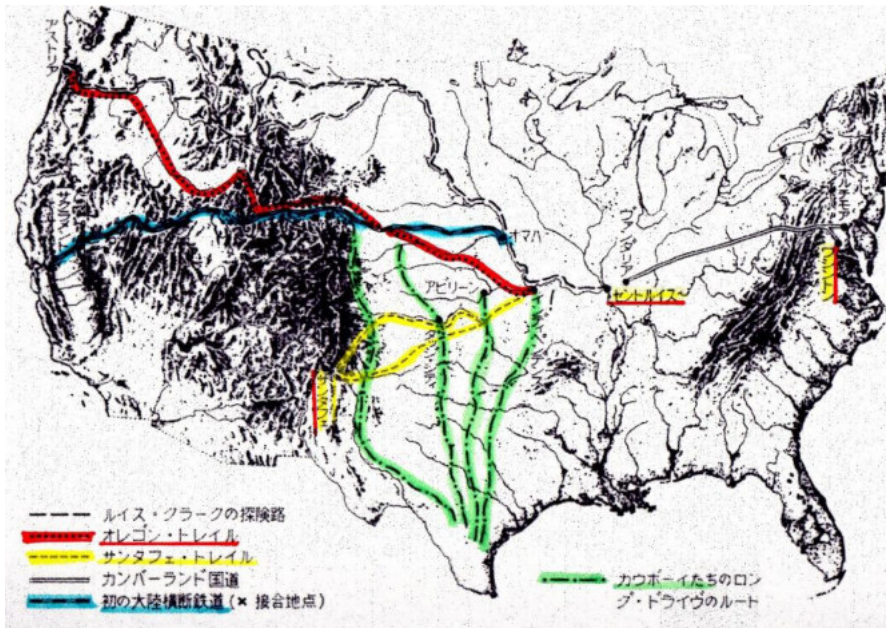
写真は伏見にある近衛天皇（76代 在位 1142年～1155年）の御陵で、安楽寿院というお寺にあり、宮内庁が管理しています。近衛天皇は病弱で17歳で早世、御陵は天皇陵としては唯一、仏塔の多宝塔です。近鉄電車で奈良から京都に向かう時、電車が竹田駅に入る直前、左手に一瞬見る事が出来ます。



2、トレイルのこと

前回の燦歩会で「トレイルって何？ 道とは違うの？」と尋ねられました。その時は、「西部劇で牛を輸送して行く時のあの道、山や草原を抜けて行く、ワイルドな道を云うんじゃないですかね……」とまことに歯切れの悪い事でした。ここで、ちょっと整理しておきたいと思います。

(猿谷要「西部開拓史」の図に彩色。赤=オレゴントレイル 黄=サンタフェトレイル
緑=キャトルトレイル 青=初期の大陸横断鉄道)



1930年に、無名の新人ジョン・ウエインを主演に据えた「ビッグトレイル」という映画があったそうです。もちろん私は観ておりません。芦原伸「西部劇を読む事典」には、こんな風にかかれています。「オレゴンへの開拓団が幾多の困難を経て、理想郷に到達する様子を絵物語のように描いた」と。この映画は興行的には失敗で、ジョン・ウエインは、「馱馬車」で脚光を浴びるまでに10年を待たねばなりませんでした。

トレイルとは、動物が踏み均し、先住民が通路として使い、白人の狩人や毛皮商人たちが行き来し、やがて開拓者たちが命がけで進んで行った険しい道、道なき道です。独立後のアメリカ合衆国は西へ西へと領土を拓げますが、移民が続々と押し寄せ（1820年からの50年間に750万人）、広大な土地が安く手に入る新天地を目指して、東部から西部へ、怒涛の様に進んだのです。オレゴントレイル（図の赤線）はミシシッピ川沿いの町「西部への入り口」といわれたセントルイスから、延々3,500km、西海岸のオレゴンを目指す旅でした。1840年からの20年間で約5万2千人がオレゴンに移住したと云われています。移住する先はオレゴンだけに止まりません。カリフォルニアやユタにも。しかもトレイルの途中は、元々は先住民の土地。旅の苦しさに加えて、様々なトラブルで、移民の10分の1は途中で倒れたという研究もあるそうです。

アメリカ大陸を縦横に伸びたトレイル。大消費地に牛を送るため、鉄道の拠点までカウボーイたちが牛を送ったキャトル・トレイル（緑線） モルモン教徒たちが迫害を逃れ、ソルトレークにたどり着くまでのモルモン・トレイル、アメリカとメキシコを結ぶサンタフェトレイル（黄線） などなど。しかし1869年に大陸横断鉄道（青線）が開通すると、トレイルを旅する人は減少し、主役の座は徐々に鉄道に移っていったのです。

京都トレイルの筈が、まったく横道にそれてしまい、失礼しました。

* * *

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。（事前に予約が必要な場合もあります）

今後の予定

- 1 1月25・6日 若狭・三方五湖と鯖街道を歩く（1泊2日のツアー）
- 1 2月16日 納会（大阪）
 - 1月 エキゾチック！世界宗教寺院めぐり（兵庫）
 - 2月 日野ひな祭り紀行と町並み散策（滋賀）
 - 3月 光秀ゆかりの福知山城と御霊神社を訪ね、由良川で治水の歴史を学ぶ
（青春18切符を利用 京都）

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（電話 0743-20-4159）

一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

（写真・文 生島おじま 幸弥）